



NO. 023

FAS通信

平成17年3月号
株式会社福地建装

上磯町中野通321番地
TEL 0138-73-5558

「ファースの家」とオール電化住宅

深夜から朝方にかけて外気温が下がる時に暖房を止めてしまうと、外の寒さで、屋根や壁や床が冷やされてしまいます。そこで、朝起きてから暖房をいれても、壁や床、天井を暖めるのには非常に時間がかかります。暖房機のあるところの周りの空気は比熱が軽いのですぐに暖まったり、冷やされたりします。昔の薪ストーブや石炭ストーブでの暖房を思い出してみてください。朝、寒い思いをして、ストーブに火をくべる。火にあたっている顔や体の全面は熱いくらいだけれど、離れると底冷えのする寒さだったことがないでしょうか。これは、暖房というよりは、一部を暖めるだけに過ぎません。本来私達の言っている暖房は、24時間、床・壁・天井がほぼ同じ温度で包まれることを言い、暖房機のある部屋だけの個別暖房を指してはいないのです。24時間全館暖房にするとこんな言葉から解消されます。「朝起きるのが寒くてつらい」、「夜中にトイレに行くのがつらい」、「朝シャワーを浴びるのが決死の思いだ」などという言葉は、ほとんど皆無になります。全館暖房をすることにより、寒くて使用しない部屋がなくなり、結露の発生、カビの発生もほとんどなくなり、暖房費用も安くなります。しかしこれは、家の性能が良い家だから言えることで、スカスカの住宅ならばうまくいきません。今全国的にオール電化住宅がたくさん建築されており、ファース工法で定義しているオール電化とは、電気以外の熱源は一切使用しない家なのです。クッキングヒーターと温水器を使用するとオール電化住宅と定義しているところもありますが、家の性能が良くなると、電気以外の熱源は使用できなくなります。よく、オール電化にすると電気代が安くなるとか、時間帯別料金制度を使うと電力費は高くないと言われますが、本当のオール電化住宅で、暖・

冷房費が高くないのは、熱損失の小さな家だからなのです。

誰のためのオール電化か・・・

オール電化住宅は多くの人達が、使用する電気代が高つくのではという観念が潜在しています。そうした観念を払拭させるためには、たくさんの情報とそれなりの説得力が必要となり、オール電化専用でなければならないとすれば、大変販売しにくくなります。しかし、施工する住宅の性能によっては、必然的にオール電化にしなければ施主様のためにならなくなります。

お客様に後悔しない家づくりを行なってもらうためと、確たる信念を持っていれば、何故、電化にしなければいけないかを理解していただけるはず。販売し易いとか、し難いとかは、あくまでも売り手側の都合なのです。

後の知恵袋

～ブーツの型くずれ防止に～

冬場には何かと重宝だったブーツ類も、夏には靴箱の奥へ突っ込まれたまま、なんてことになってるよね。ブーツは一足ごとに箱に入れて収納するのが一番いいんだけど、それでも型くずれすることが多いんだよ。ソフトブーツはくによくにゃになっちゃうし、ハードブーツはへんな型が付いたらもう戻らないんだ。

そこで、ブーツをしまっとくのに、雑誌を使う便利な方法があるんだ。まず、いらなくなった雑誌を丸めてブーツのサイズに合わせるんだ。そして丸めたらセロテープで止めて固定して、すっぽりブーツに入れちゃうだけ。そのまま靴箱に入れてしまっとけば、次の季節まで型くずれせずにちゃんとしまっておけるんだよ。雑誌を入れると、湿気の予防にもなるんだ。カットブーツには、いらなくなった文庫本を入れてもいいよ。

